

日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 最終レポート

今回、第四十三回日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加させていただき、メキシコで一年生活するという貴重な時間を過ごさせていただきました。このメキシコ滞在は、メキシコの中央部にある首都メキシコシティに八月十九日に到着後、最初のホテル滞在中に、自分の力で滞在する家を探すというところから始まりました。留学センターや大学の研修制度などによる支援のある留学と違いすべてが用意されていないという状況で始まったこの研修は、なかなか厳しいものでしたがその分「自分の足で生きる力」というようなものを身につけることが出来たと実感しています。何より住む家の環境というものが人間にとって非常に重要であるという事を身をもって知ることになりました。

私はこの滞在に向けて渡航前に四つほどの計画を立てました。それはスペイン語学力の向上、日本の大学で学んできたものを現実に見に行くこと、音楽を通じたコミュニケーションについて特にメキシコ音楽について知ること、そして日本にいた時はやったことのないことに挑戦することという四点でした。

まず一つ目ですが、私が大学で専攻しているものがスペイン語ですのでメキシコの公用語として話されているスペイン語の向上は必然的に私にとって重要なことでした。その結果を残すという目的として国際スペイン語資格のDELE（デレ）も受験することも念頭に入れて動いていました。まずは、メキシコ国立自治大学付属の Centro Enseñansa Para Extranjeros（セントロ・エンセニャンサ・パラ・エクストランヘーロス）という外国人向けのスペイン語学校に通うことで、平日の午前中はレベルに合わせたスペイン語の授業を三時間、午後はダンスや文学、歴史、地理、考古学、演劇などの授業から二つほど選択し、一日5～6時間はスペイン語にどっぷりつかるといような時間を過ごし、着実に力をつけることが出来ました。また滞在させていただいた家の中でも、メキシコ国立自治大学の学生であるメキシコ人とコロンビア人の女子学生との共同生活でありましたので、日本語でほぼ話をしない環境に自ら飛び込むこととなり、最終的にほぼ辞書なしでもうまく会話する技術も身につけることが出来ました。Centro Enseñansa Para Extranjeros（セントロ・エンセニャンサ・パラ・エクストランヘーロス）には、当初からの目的であったDELE受験の環境が整っていませんでした。そのため、帰国直前の七月に、メキシコ州よりも東側にあるオアハカ州の州都であるオアハカシティの Instituto Cultural Oaxaca（インスティテュート・クルトゥラル・オアハカ）という私立の語学学校にDELE受験と専門の授業コースを求めて引越し、転入をしました。その学校からはホームステイの手配をしていただけたので、メキシコシティでの生活とは異なり、メキシコ人の温かい家庭の雰囲気も味わうことが出来ました。DELE受験においては、あと一步という点数ということで合格といった形での結果

を残すことができませんでした。しかし帰国後のモチベーションとしてスペイン語を続け、勉強した証を大学生活四年間の資格として手にしたいという意識を改めて持ち続けたいと思います。今年度最後に日本での試験日程が残されていますので必ず再挑戦しこの手につかみたいと願っているところです。



学校で仲良くなった先生の演劇を見に行ったときの写真

二つ目は、日本の大学で学んできたメキシコや南アメリカ大陸の歴史の中で興味をそそられたこと、つまりマヤ文明やアステカ文明などといった古代文明の遺跡であるテオティワカン遺跡やチツェン・イツァ遺跡に足を運び実際のスケールを体全体で味わうという事でした。十二月二十五日から一月六日までの十二日間で決行したバスツアーによって、ウシュマル遺跡、チツェン・イツァ遺跡、トゥルム遺跡、そしてパレンケ遺跡に出会うことができました。旅行ブックとして定番の「地球の歩き方」に書いていない裏メキシコのような場所にも足を運ぶことができ、充実した旅行でした。また、40人ものメキシコ人との旅行でしたので、メキシコ人の生活時間も十分に実感することになりました。お昼時間が午後の三時や四時ということで空腹に悩まされることもしばしばでした。また、グアナファト州というメキシコ州よりも北側にある街ではミイラ博物館を見学し、乾燥している土地では土葬をするだけでしたがミイラ化してしまうという話に驚きました。そしてハリスコ州のグアダラハラという街では、メキシコの伝統酒であるテキーラの工場を見学するなど積極的に各地を巡ることで、リアルなメキシコの街並みや高速道路の雰囲気、もちろん歴史的建築物も含めて体全体で味わうことができました。各地を回って気付いたことがいくつかあります。現在のメキシコは、スペイン人の侵略の影響もあり全土がキリスト教徒のカトリック宗派なのですが、マ

ヤ文明やアステカ文明が栄えた時代はなんと、現在の日本と同じような多神教であったという事は日本人の誰もが驚くことでしょう。その証拠に、ウシュマル遺跡は水の神様が祭られていたと言われていて、テオティワカン遺跡は神様が新しい太陽を作った時の伝説が残された場所です。日本のように建国の伝説も数多く残されていて、まだまだ興味深いことの多い分野です。手に入れたメキシコの神話、伝説という本を今後も読み進めていきたいと思っています。旅行などを含めてメキシコの各地で様々な体感を得られました。メキシコ州より北部にあり、またアメリカが週国との国境付近はずねることができなかったののでいつかそちらにも行けたらと思っています。



テオティワカン遺跡の月のピラミッドから見た風景写真

三つ目は、音楽を通じたコミュニケーションについて、特にメキシコ音楽について知ることでした。これは、私は小学五年生からピアノを始め、中学生からはフルートを吹奏楽部の部員と始めたという経歴から音楽そのものに興味を持っていたことから湧き出た計画でした。Centro Enseñansa Para Extranjeros (セントロ・エンセニャンサ・パラ・エクストランヘーロス)の学校には、歴史から見る音楽という授業と伝統ダンスの授業を選択しましたが、メキシコの音楽は、種類があるのに似たようなメロディとリズムが多く、理解が難しいものでした。というのも私にはどの音使いがどのジャンルでという聞きわけをすることが最後までできなかったからです。また、日本とは違い15世紀ごろから19世紀までスペイン人に征服されていたという歴史があることからスペイン人に反発するような内容や、独立や革命を鼓舞したり、謳っているものも多く歴史的な観点からも学ばなければならなくなり、メキシコ側、スペイン側、両方からの歴史的知識が必要でしたので勉強不足を痛感したので

す。しかし、ベジャス・アルテスという劇場と博物館が一体型になっている建物で毎週水曜日と日曜日に行われている、Ballet Folklórico de México（バジェット・フォルクロリコ・デ・メヒコ）というメキシコの民族舞踊バレエの舞台を見ることが出来たのは幸運でした。この舞台を見なければ私はダンスを取らなかったでしょうし、各州に各音楽があることも知らないまま日本に帰ってきていたと思います。二月に舞台を鑑賞し、憧れとともにダンスの授業を取りました。西洋から流れてきたポルカ音楽、キューバなどの地域から流れてきたハローチョ音楽、そしてメキシコ中央部で形成されてきたハリスコ州の舞踊の三つを選択、練習し最終日には発表会を行いました。リズムの取り方は、スペイン舞踊で有名なフラメンコとも違い独特で、やればやるほど興味が強くなり帰国直前の七月も一度舞台を見に行くほどでした。機会があれば日本でもぜひ勉強したいと思っています。



ダンス発表会での写真

四つ目は、日本にいたときにやっていなかったことに挑戦するということです。そもそも日本から出ることを探すこと、ひとりで生活することという点で始めてだらけだったので、それならばもっとももっといろいろなことに挑戦しようということできざまなことに何でも首を突っ込んでみました。それは三つ目の目標であったメキシコ音楽への興味から入ったダンスをはじめとして、スペイン語での即興劇、線描きでの絵画、木彫りの人形・アリブリッヘスへの色塗り技術見学や体験、火山散策、ホテルと交通手段だけを用意しただけの旅行先での飛び入り現地ツアー参加など、日本にいたらチャレンジしなかったであろう分野をできる限り挑戦することができました。特に印象に残っているのはもちろんダンスなのですが、もうひとつ上げると、木彫りの人形・アリブリッヘスへの色塗り技術見学と体験が一

年間の中で一番好きになって行ったことでした。これは七月に滞在していたオアハカ州のオアハカシティの街角で見つけたお店のゲラゲツァ祭りのイベント期間限定のワークショップでした。職人の方が二人程お店に滞在していて、色の塗られていない木の人形に彩色していく体験だったのですが、こればかりほど面白くなるもので気づいたら三時間ほど時間がたっていて驚きました。この人形はもともと動物などではなくドラゴンや悪魔など現実にはない伝説上の生き物を扱うことが多かったそうなのですが現在は観光客の人気が高まり猫や鳥、犬なども作られるようになりました。私は、この体験のときにハチドリという空中でも羽をパタパタさせて花の蜜をすっている鳥に色を塗りました。今でもこれは私の部屋に飾られています。



私が色塗り体験したお店で売られていた一番豪華なアリブリッヘスの写真

終わりに、今回この計画に参加させていただくことでメキシコに対する関心や興味がさらに深まることとなりました。また、いかに自分が日本にいたころにさまざまな人に支えられていたのかということも実感する重要な機会にもなりました。今回の研修においてご支援いただきました、埼玉県庁および外務省、そしてメキシコ政府の皆様には深く御礼申し上げます。また最初から最後まで私に優しくして下さったメキシコシティ、オアハカシティの私の家族、そして実の両親にも深く感謝いたします。ありがとうございました。